



自由国民社
1500円(税
抜券)
〈紹介者下
関市幸町「ごど
もの広場」室
田美由紀 電話
0800・22022
・70150 hit
p://www.kodomo
noiroba.co.jp

「どんなかんじかなあ」中山千夏／文 和田誠／絵



ネーるひろくん。
ある日、きみちや
んから「いちにぢじ
つと動かないで過ご

「相手のことを考えて」、「他の人の気持ちを思いやって」など、よく耳にするし口にもします。相手が身体や心にハンディキャップを持った人ならなおさらです。でもそう思えば思えば自分の言動がきこちなく、わざとらしくなっていないかな、と顧みたりします。このお話のひろくんのように、自然な振る舞いのできる良いのに。

お友達のみりちゃんは、目が不自由です。目が見えないってどんなかんじかなあと考えたひろくんは、しばらくの間目をつぶってみました。すると、いつもよりずっとたぐさんの音が聞こえることに感動し、早速みりちゃんにこう伝えるのです。「見えないってすごいだね。あんなにたぐさん聞こえるんだもの」と。

肩の力を抜いて考える

この数年特に、障がい・性別・国籍などを越えた多様性を認め合おうという動きが活発です。一方、ネット社会での炎上と言われる匿名性が高く心ないパッシングを毎日のように目にする危うい時代でもあると感じます。一人一人違う人間がいると知ること、そしてひろくんのように「どんなかんじかなあ」と考えることの大切さに改めて気付かされます。

耳が聞こえないさのくんを思い、耳栓をしてみても、今まで見えても気付かなかったことがあると分かったり、震災で両親を亡くしたきみちちゃん、この本を読むとちょっとドキッとして、そして心にストンと落ちる、「どんなかんじ」なのです。

ともすれば重くながりちなテーマを中山千夏さんの短くて分かりやすい言葉と和田誠さんの明るい絵のおかげで、大人も子どもも肩の力を抜いてひろくんと一緒に考えることができます。